

# 地震一口メモ No.175

## 2018年6月18日 大阪府北部の地震について⑨

2018年6月18日に大阪府北部で発生した最大震度6弱の地震では、死者6人、負傷者462人、住家全壊21棟、住家半壊483棟などの被害が発生しました（2019年8月20日13時00分現在、総務省消防庁による）。この地震は「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」や「平成28年（2016年）熊本地震」と同じく、陸域の浅い場所で発生した地震でした。

下表のとおり、地震発生から約1年半となる2019年12月31日までに、この地震の震源周辺（図1の領域a内）で震度1以上を観測した地震の回数は80回でした。

表 最大震度別地震回数表（図1の領域a内） 2018年6月18日～2019年12月31日

期間	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7	合計
2018年6月18日～12月31日	46	16	6	1			1			70
2019年1月										0
2月										0
3月										0
4月										0
5月	2		1							3
6月	3									3
7月										0
8月	1	1								2
9月										0
10月		1								1
11月		1								1
12月										0
合計	52	19	7	1	0	0	1	0	0	80

図2をみると、地震活動は減衰傾向にあります。この地震が発生する前と比較すると活発な状況が続いていることがわかります。今後もこのような状態が当分続くと考えられます。また、今回発生した地震の周辺には、有馬-高槻断層帯、上町断層帯、生駒断層帯など複数の活断層帯があることにも留意が必要です。日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありません。引き続き、日頃からの地震への備えを心がけてください。

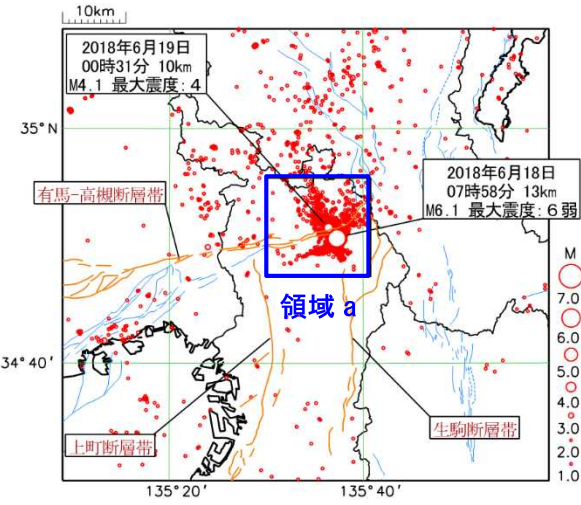


図1 震央分布図

2018年1月1日～2019年12月31日  
深さ0～20km、マグニチュード（M）1.0以上  
※橙色、水色の線は地震調査研究推進本部の  
長期評価による活断層を示す

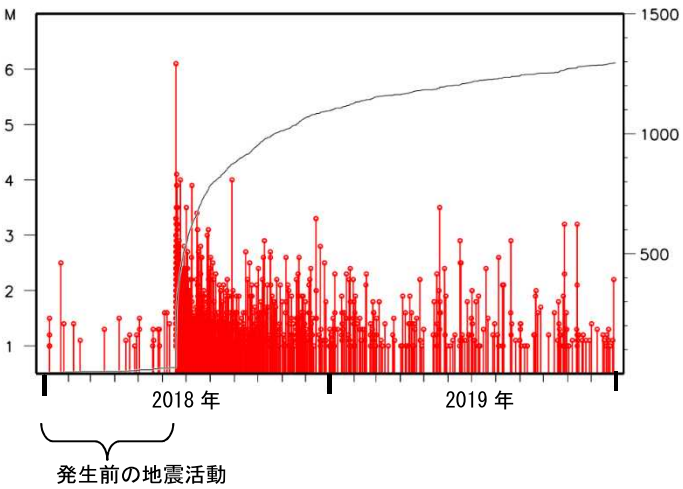


図2 図1の領域a内の地震活動経過及び回数積算図

横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。  
折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸  
は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。